



2017.5.19

ダブルかオーバーコールか  
(オーバーコール今昔つづき)

昔のスタイルの競り合いビッドでは、「ダブル」は絵札で強いという意味に使われていました。昔の主流システムだった Goren システムの解説本にもそう書かれています。だから昔はオーバーコールすると、それはダブルする強さがないということの意味していました。昔にブリッジを教わった人は今でもこのスタイルを継続して使っているか、少なくともこの傾向を保って競り合いビッドをしていますし、周囲の人たちにもその考え方で影響を及ぼしたりしています。日本代表クラスの人の中でもこの昔の考え方を持ち続けている人が居て、今風の考え方の人とペアで組んでいるとディザスターを招くことがあるのだなと実感したことがありました。先日の柳谷杯で、ディーラー (私) から

1 C - (P) - 1 H - (X)

1 NT - (P) - 3 NT - (P)

P - (4 S) - X / / /

私の左は日本代表のプレイヤー (男) 右もレディースの代表プレイヤーです。

結果は 3 ダウンで 500 点のゲインでしたが、オーバーコールかダブルかについて議論が出るハンドだったと思います。最初の X をした人のハンドは

♠ A65 ♥ 106 ♦ AKQJ98 ♣ 62

で 14 点ハンドです。オープンできる強さがあるので 2 D オーバーコールよりダブルを選択したのでしょう。(2 D オーバーコールではハンドを示していないと考えたように思えます) しかしパートナーはスペードとダイヤモンドの 2 スターと向き合ったと考えて

♠ 109432 ♥ 8543 ♦ 6 ♣ J93 を持って、4 S とサクリファイスに来たのです。(ノンバル相手バル)

実際最初にダブルした人のハンドが、もし

♠ AQ65 ♥ 10 ♦ AJ984 ♣ K102

のような 2 スターハンドであれば非常に優れたサクリファイス、ひよっとする 4 メークしかねません。先のシーケンスで問題なのはまず最初のテークアウトダブルです。強さを示すために使うよりフィットを探すために使っていれば、すなわちスペードとダイヤモンドの 2 スターを表すということであったならば、このような破局に至ることは無かったでしょう。なおダブルは 3 NT というビッドをパスしていますが、3 NT は落ちると判っているのになぜダブルしなかったのかということは、何かメークするコントラクト (例えば 4 H) に逃げられてしまうと考えたのだと思います。黙っていれば 300 点入ってくる場所ですから出来るコントラクトに逃げられては意味がないと考えたとしても不思議ではありません。

全部のハンドは次のようになっていました。現実起きたことを、「もしこうしていれば」とだけ考えては意味がありませんが、W が最初にダブルでなく、2 D とオーバー

コールしてたら NS は 3 NT とはビッドしていなかったでしょう (たぶん 4 H になっていたでしょう) また E は 4 S とサクリファイスすることはなかったでしょう。また W が 3 NT に対してダブルと言っているにもかかわらず 4 S とサクリファイスに行くことも無かったです。

a) 4/9 柳谷杯から

♠ KJ8		
♥ Q7		
♦ 1074		
♣ AQ1084		
	♠ 109432	
♠ A65	Ⓝ	♥ 8543
♥ 106	W   E	♦ 6
♦ AKQJ98		♣ J93
♣ 62	S	
	♠ Q7	
	♥ AKJ92	
	♦ 532	
	♣ K75	

もう一つ例を挙げましょう。ディーラーの N から 1 D、E パスの後 S は 1 H、ここで W は ♣ と ♠ の 2 スターを示すダブルをするか 2 C とオーバーコールをするかの選択があります。スートクオリティに差がありますから、2 C オーバーコールの方を選びます。その後 N はサポートダブルをし、E パスの後 S は 2 H と言います。そこで W はスペードもあるという意味でダブルをすると、E はペナルティパスをしてしまいました。どうやっても 2 H X 2 メーク以上 (670 点以上) になります。2 S と言っておけば平穩だったのですが、2 C オーバーコールして後にダブルはスペードが 4 枚あるという意味でなく、単に強いという意味に受け取ったようでペナルティパスをしてしまった様です。

b) 5/6 五反田 SRR から

♠ AQ5		
♥ K72		
♦ AJ73		
♣ 1082		
	♠ K942	
♠ 10873	Ⓝ	♥ Q865
♥	W   E	♦ K1092
♦ Q865		♣ 4
♣ AKQJ5	S	
	♠ J6	
	♥ AJ10943	
	♦ 4	
	♣ 9763	

例 a) b) と古いスタイルのブリッジに大きく影響されているからディザスターを迎えているように見えます。「オーバーコールするとテークアウトダブルするより弱い」という考え方をやめて『テークアウトダブルをすると、オーバーコールするようなスートはないけれどアンビッドスーツはサポートできます』という意味にパートナー間で共通理解を持っていることがもっとも重要なことです。